

2427

JASDAQ

株式会社アウトソーシング
2011年12月期 第3四半期 決算概要

株式会社アウトソーシング(以下、アウトソーシング社)の2011年12月期 第3四半期(3Q)の決算発表を受け、代表取締役会長兼社長の土井春彦氏に個別取材を行いましたので、その概要をご案内いたします。

2011年12月期 第3四半期累計期間 連結決算概要

2011年12月期 第3四半期累計期間(3Q累計)の連結業績は、【表1】にあるとおり、前年同期比で増収・減益となった。復興特需の獲得により、過去最高となる外勤社員を擁するに至り、売上高は拡大したものの、採用市場において、需給が想定以上にひっ迫した上、シェア獲得に向けた先行投資費用を計上した結果、営業利益以下、4月27日発表の業績予想を下回る結果となった。採用キャンペーン向けに追加募集関連費用を1億円、採用キャンペーン実施費用を8,000万円、さらに業界のイメージ改善とコーポレートブランド向上を目指したテレビCMの制作・放映費用8,000万円を計上した。特に、採用キャンペーン向け費用については、当初の会社計画を大きく上回る結果となった。

採用環境については、震災後に雇用を解約された労働者が4-5月に集中して失業保険を活用。給付期間3か月が満了するまでの7-8月において、復興需要の立ち上がりと重なり、採用市場に逼迫が見られた。ただし、給付期間が満了し始めた9月以降、外勤社員の増加人数は前月比で改善傾向にある。

今第3四半期の業績に鑑み、アウトソーシング社では通期業績予想を下方修正した。

●【表1】 2011年12月期 第3四半期累計期間 連結業績概要

(百万円)	10/12月期 (実績)		11/12月期 (実績)			7/28付 予想
	3Q累計	構成比	3Q累計	構成比	変化率	
売上高	20,249	100.0%	22,832	100.0%	12.8%	23,714
売上総利益	4,160	20.5%	4,612	20.2%	10.9%	n.a.
販売管理費	3,525	17.4%	4,469	19.6%	26.8%	n.a.
営業利益	635	3.1%	142	0.6%	-77.6%	508
経常利益	823	4.1%	258	1.1%	-68.7%	n.a.
四半期純利益	376	1.9%	△ 24	-0.1%	-106.4%	n.a.

●【表2】 販売管理費の四半期推移

(百万円)	10/12月期				11/12月期		
	1Q(実績)	2Q(実績)	3Q(実績)	4Q(実績)	1Q(実績)	2Q(実績)	3Q(実績)
販売管理費	1,154	1,134	1,237	1,309	1,366	1,454	1,648
対前四半期	-0.5%	-1.7%	9.1%	5.8%	4.4%	6.4%	13.3%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

2011年12月期 第3四半期累計期間 事業別業績概要
生産アウトソーシング事業

輸送用機器関連メーカーを中心に、復興特需が出ている生産現場において、アウトソーシング化ニーズが拡大した。アウトソーシング社では、ハイブリッド車などの付加価値が高い製品は国内で生き残る産業と捉え、戦略的に市場開拓をしてきたことにより、過去最高の受注を獲得し、業績拡大を牽引した。一方で、競合他社が積極投資を控えている今こそ、市場シェアを拡大する好機と捉え、採用体制を急速に強化するとともに、面接に際しての交通費を支給したり、一定期間、寮費を無料にするなどの採用キャンペーンを行った。その結果、予想を超える費用増となり、営業利益は減益となった。

なお、アセアン地域では、4月のタイ子会社設立、ならびに現地人材会社2社の買収に続き、東アジア人材ネットワーク構築を目標に、7月にインドネシアに子会社を設立した。

管理業務アウトソーシング事業

生産アウトソーシング事業と同様、生産体制正常化の前倒しが顕著であった輸送機器業界において、ボディーメーカーを中心とした大手各社の採用代行ニーズが拡大したことの恩恵を受けることができた。さらに、秋口以降、国内大手自動車メーカー8社による期間社員の採用人数は1万人規模になると推定されており、さらなる採用代行業における受注の拡大を見込んでいる。加えて、メーカー期間社員採用後に発生する管理業務の受託事業においても、寮管理などの不動産関連業務を軽減するリロ補償（ビジネスモデル特許）を持つ、株式会社リロケーション・ジャパンとの間の合弁会社、株式会社 ORJ によって、同業他社との差別化による受注拡大を想定している。

●【表3】連結セグメント 取引先業種別売上高の内訳

(百万円)	10/12月期(実績)	11/12月期(実績)	前年同期比	
	3Q(7~9月)	3Q(7~9月)	増減額	増減率
生産アウトソーシング事業	6,984	7,590	606	8.7%
期末外勤社員数(人)	6,674	8,008	1,334	20.0%
電気機器関係	2,277	2,194	△ 83	-3.6%
食品関係	500	515	15	3.0%
輸送用機器関係	1,826	2,714	888	48.6%
化学・薬品関係	1,055	947	△ 108	-10.2%
金属関係	59	183	124	210.2%
その他	1,264	1,034	△ 230	-18.2%
管理業務アウトソーシング事業	276	334	58	21.0%
採用代行人数(人)	1,079	1,079	0	0.0%
介護事業	125	-		
その他の事業	23	33	10	43.5%
合計	7,410	7,958	548	7.4%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

2011年12月期 連結業績予想

アウトソーシング社は、第3四半期累計期間の決算報告とともに、4月27日に発表した通期業績予想の下方修正を発表した。震災後に雇用解約されたメーカー期間社員や派遣社員は、セーフティーネットを活用しており、第3四半期は復興特需に沸く中においても、失業保険の給付期間中であつた。このため、その多くは製造現場に復帰せず、採用市場は予想以上に逼迫した。その結果、外勤社員数が当初の計画に対して未達となり、売上高、利益ともに下振れた。さらに、このような状況の中、中計最終年度の2014年度に向け、業界No.1を目指すために採用費用を積んだため、4月発表の通期予想を修正するに至った。テレビCMの継続による費用3億円のほか、タイの洪水による代替生産の大型受注を取るため、採用諸経費5,000万円を追加計上している。

●【表4】2011年12月期 連結業績予想の修正

	10/12月期 (実績)		11/12月期 (10/28付予想)						11/12月期 (4/27付予想)		
	通期	構成比	上期(実績)	下期	通期	構成比	前期比 増減額	前期比 増減率	上期	下期	通期
売上高	28,386	100.0%	14,874	17,496	32,370	100.0%	3,984	14.0%	14,960	19,620	34,580
営業利益	1,173	4.1%	208	312	520	1.6%	△ 653	-55.7%	110	1,020	1,130
経常利益	1,401	4.9%	280	385	665	2.1%	△ 736	-52.5%	180	1,070	1,250
当期純利益	760	2.7%	10	215	225	0.7%	△ 535	-70.4%	△ 45	700	655

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

ご参考
● 連結主要指標と業績の推移

主要株価指標			主要財務データ		
発行済み株式数(株)	11.9月	15,569,800	総資産(百万円)	11.9月	10,815
うち自己株式数(株)	11.9月	1,139,500	自己資本(百万円)	11.9月	3,215
時価総額(百万円)	12.1.18	4,453	有利子負債(百万円)	11.9月	2,807
一株当純資産(円)	11.9月	223	自己資本比率(%)	11.9月	29.7
ROE(%)	11.9月	△ 0.7	有利子負債比率(%)	11.9月	87.3
ROA(%)	11.9月	△ 0.2	フリーキャッシュフロー(百万円)	11.9月	△ 18
PER(倍)	11.12月予	18.3	注: ROE=当期純利益÷期末自己資本		
PCFR(倍)	11.9月	28.0	ROA=当期純利益÷期末総資産平均		
PBR(倍)	11.9月	1.3	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	12.1.18	286	日々平均出来高=過去1年間の平均		
単元株数(株)	11.9月	100	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	12.1.18	50,618	フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資CF		

2010年11月15日付で普通株式1株を100株に分割するとともに、普通株式の単元株式数を100株とする単元株制度を採用。

連結 (百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株益(円)	1株配(円)
2007年12月期	24,321	1,013	1,004	583	4,917.29	492.00
2008年12月期	24,148	1,113	1,134	641	5,412.28	644.00
2009年12月期	17,964	△ 150	22	△ 215	△ 1,511.00	644.00
2010年12月期	28,386	1,173	1,401	760	52.46	7.21
2011年12月期上期	14,874	208	280	10	0.73	--
予2011年12月期	32,370	520	665	225	15.59	8.00

注: 2011年12月期予想は、2011年10月28日発表の会社予想

● 株価チャートとRSI


出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている
 $RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均} \times 100$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。